

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

論述 (1行30字 2行×3・3行×4 4行×1 計22行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

第1問が古代、第2問が中世、第3問が近世、第4問が近現(近現代)からの出題で、昨年度と同様であった。

その他トピックス

第1問は、第2回東大入試オープンと夏期講習「東大日本史」において、関連する問題を扱っていたので、受けていた生徒は取り組みやすかったであろう。

第4問は、大学受験科「東大添削指導システム」の問題と、ズバリの中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 A 2行 B 4行	A 9世紀前半における太上天皇の政治的立場の変化 B 9世紀前半における天皇と官人との関係の変化	A 文章(2)と(3)から天皇と太上天皇との関係を読みとり、対比させて答案を構成するのがポイント。 B ヤマト政権時代の氏族制が律令国家へも引き継がれていることを確認させる、東大日本史の頻出テーマの一つである。また、平安初期の唐風化の意味が理解できていれば、取り組みやすかったであろう。	標準
第2問	論述 A 2行 B 3行	A 東大寺再建時の技術の特徴 B 源頼朝と東大寺再建	A 日宋間の私貿易が盛んに行われていたことを想起できたか否かで得点差がついたと思われる。 B 鎌倉幕府が、将軍と御家人との封建的主従関係を基盤としていたことが理解できていれば難しくないが、指定字数でまとめるのに工夫が必要であった。	標準
第3問	論述 A 3行 B 2行	A 幕府の長崎とポルトガル船に対する政策 B ポルトガル船の来航禁止と諸大名	A 与えられた文章を整理すれば、解答は作成できる。したがって、各文章の情報をどれだけまとめて解答を構成できたかがポイントとなる。 B 当時の政治・外交の状況が理解できていないと、的を絞ることが難しかったかもしれない。	標準
第4問	論述 A 3行 B 3行	A 明治期の小作地率の変化 B 戦時下における地主政策の変化	A 小作地率の増加を、松方財政期と日露戦争前後の時期に注目して書けたかがポイントとなる。 B 資料や図から「政策的意図」は判断しやすいと思われるが、既存の知識と資料の情報をまとめることがやや難しかったと思われる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

できるだけ多くの過去問にあたり、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、第1問から第3問でみられる提示された文章の答案への反映の仕方にてできるだけ早く慣れたい。また、第4問の近現代に関しては正確な知識が要求されるので、量よりも質を意識した学習を進めたい。さらに、文化史を不得意分野とせず、作品の暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、各文化の特徴を把握しつつ政治・外交・経済との関わりに十分注意したい。